

外務省主催ウェビナー「国際女性記念の年に寄せて」

外務省総合外交政策局女性参画推進室長 石川真由美

2020年は、ジェンダー平等に関する国際的指針を打ち出した第4回世界女性会議から25周年、平和と安全保障分野への女性の参画の重要性を謳った国連安保理決議1325号の採択から20周年という女性のエンパワーメント促進における重要な年でした。さらに国連女性機関（UN Women）発足10周年、その日本事務所の開所5周年という記念の年でもありました。他方、実社会に目を転じると、新型コロナウイルスの拡大により女性が大きな影響を受け、既存のジェンダー間格差がより拡大したと言われています。こうした中、外務省は、コロナ後の「より良い社会づくり」に向けて、3月末に開催したウェビナーで3つのテーマを取り上げました。

まず、「女性のエンパワーメントをよりよい社会の原動力に」では、経済と政治・社会が密接に関わる中、国際的な女性活躍の潮流や国内でのジェンダー平等達成に向けた課題や取組が共有されました。次に、「スポーツ界における女性のエンパワーメント」では、スポーツを通じた女性のリーダーシップ育成及びコロナ禍での新たな取組について好事例が紹介されました。最後の「女性・平和・安全保障（WPS）ってなに？」では、紛争予防や和平交渉等の意思決定における女性の平等で十全な参画促進等の課題について、日本及びEUの取組が紹介されました。

本ウェビナー開催に際し、UN Womenから多大なる協力をいただきました。アニタ・パティア事務局次長より開会挨拶のビデオ・メッセージが発出され、また、スポーツ・セッションのモデレーターを務

めた石川雅恵日本事務所長は、スポーツ界のジェンダー平等実現に向けたUN Womenと国際オリンピック委員会の連携を紹介しました。また、WPSセッションではムハンマド・ナシリアジア太平洋地域事務所長から、日本政府がUN Womenに拠出し、実施しているスリランカの行動計画策定支援について説明がありました。

ウェビナー開催後、多くの視聴者から、コロナ禍で特に影響を受けた女性・女児の現状が浮き彫りとなる中、女性の権利促進に繋がる時宜を得たテーマだったと評価いただきました。日本政府は引き続き、ジェンダー平等実現と女性のエンパワーメント促進に寄与する事業や取組を行っていく考えです。

ウェビナーの動画は以下からご覧いただけます。

<https://www.youtube.com/watch?v=91TZp98S7FE>



2021年CSW (国連女性の地位委員会) と GEF (平等を目指す全ての世代フォーラム) の開催報告

ジェンダー平等と女性のエンパワーメントに関する国連の最大の年次集会である「国連女性の地位委員会 (CSW65)」が3月に開催されました。それに続いて3月と6月にUN Womenがメキシコとフランス政府と共催の下に実施の、若者や市民社会と連携したGeneration Equality Forum (平等を目指すすべての世代) 開催についてのご報告です。私たちの社会を変え、特に女性のリーダーシップを強化する極めて重要な機会となるでしょう。

第65回国連女性の地位委員会 (CSW65)

田中由美子 (理事、CSW日本代表)

2021年3月15～26日、ニューヨークの国連本部において、第65回国連女性の地位委員会 (CSW65) が開催されました。新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響で、昨年に続き会議はハイブリッドでおこなわれました。

CSW65の優先テーマは、「ジェンダー平等とすべての女性・少女のエンパワーメントを達成するための公共生活への女性の完全で効果的な参加と意思決定及び暴力の根絶」でした。また、レビューテーマは「女性のエンパワーメントと持続可能な開発との関連」で、SDGs目標の達成状況及びCOVID-19への対応などが協議されました。閣僚級ラウンドテーブルでは、丸川女性活躍担当大臣やカマラ・ハリス副大統領もビデオメッセージを送りました。

最終日には、6分野56項目の勧告について明記した合意結論が採択されました。勧告には、女性の政治参加を促進するための基準や法的枠組の強化、公的生活における女性への暴力の根絶、ジェンダー視点からの制度改革の強化、女性の公的生活への参加への質の高い融資の増加、女性がもっと声を上げることへの支援、ジェンダー不平等の根本的要因を取り除くことなどが盛り込まれました。

期間中には、世界中の市民団体によるオンラインイベントが700件以上開催され、日本の女性市民団体もイベントを企画・実施し、大いに盛り上がりました。



若いフェミニストの視点から見た Generation Equality Forum

山口慧子 (日本YWCA幹事・
Generation Equality Youth Task Forceメンバー)

3月29日～31日までの3日間、メキシコでのGeneration Equality Forum (以下メキシコフォーラム) がオンラインで実施されました。メキシコフォーラムでは、6つの行

動連合と女性・平和・安全保障と人道的行動に関する協定、それぞれの今後5年間の具体的な行動の下案が発表され、政府や企業、慈善団体を含むステークホルダーが具体的な行動と資金援助を約束しました。多くのコミットメントが宣言され、ジェンダー平等に向けて着実に歩みを進めるための場であることを肌で感じ、歴史的な会議に立ち会えたことに感激の思いでした。

メキシコフォーラムでは、国連ウイメン日本協会のウェブサイトで報告されている通り、85カ国から10,000人が参加し、その内の半数の約5,000人が30歳以下の若者だったと言われています。若者は傍聴していただけではなく、メキシコおよびフランス大統領や国連事務総長等の要人が登壇した開会式を含むすべてのセッションでスピーカーやファシリテーターとしても参加しました。また、ユースの中でも南北・地域・年齢バランスが考慮され、先住民やトランスジェンダーの少女など、これまで議論から排除されてきたマイノリティの若者がその声を直接届けられるスペースになっていたことが印象的でした。

さらに言うと、企画立案過程から、最高意思決定機関であるコア・グループを始めとするすべての機能委員会にも参加してきました。マルチステークホルダープロセスでは、関係者間の権力関係が問われず、不透明なプロセスの中で物事が決定されることが往々にあります。若者を単なる「象徴」としないために、共同のリーダーシップ、共同的創造がいかにか大事かということを、複数の若者グループで「Young Feminist Manifesto」という要望書にまとめ、折に触れて説明してきました。メキシコフォーラムで若者の参加が全体の約半数に及んだのは、真に若者のリーダーシップが発揮されるようアカウンタビリティを求め続けた結果なのです。

6月30日～7月2日のフランスフォーラムでは、さらに踏み込んだ協議がなされる予定です。若いフェミニストの皆さんも、このプロセスに参加しませんか？



3月7日「国際女性デー」 オンライン・チャリティ・トークイベントを開催

国連ウイメン日本協会は、2021年3月7日に「国際女性デー」オンライン・チャリティ・トークイベント「難民キャンプから未来への希望を育む」をオンラインで初めて開催し、200人近くの方にご参加いただきました。

最初に、田中由美子国連ウイメン日本協会理事が、「世界の女性と少女は、いま」をテーマに、女性のリーダーシップ、経済的エンパワーメント、家事労働とケアワーク、キャリアの壁、経済への女性参加、有害な慣行など女性と少女に対する暴力、女性と平和・安全保障、Covid-19のジェンダーインパクト（女性の貧困の拡大と女性に対する暴力の増加）などの課題を挙げ、UN Womenや、国連ウイメン日本協会の対応を紹介しました。

次に、石川祥子UN Womenバングラデシュ事務所長が、ダッカからネットで「ロヒンギャ難民キャンプ：難民女性支援の現場から」を報告し、質問に回答しました。

バングラデシュ・コックスバザールの難民キャンプには、約90万人のミャンマーを追い出されたロヒンギャ難民が住んでおり、そのうち52%が女性と少女で、世帯主の16%は女性ということです。UN Womenは、多目的女性センター5棟をつくり、ロヒンギャ女性のリーダーシップ研修、技術・職業訓練、バングラデシュ女性とのネットワークづくりなどを実施し、日本協会もその一部を支援しています。

コロナ禍により、外に出られなくなった女性、DV、児童婚、多重婚が増加し、女性たちへの支援がますます必要になったにも関わらず、キャンプに国際機関職員の出入りが制限される中で、UN Womenが育てたロヒンギャのボランティア46名が中心になって、支援活動をしているという報告もありました。

なお、このイベントは

詳細は録画をご覧ください：<https://www.unwomen-nc.jp/?p=1710>

(理事 橋本ヒロ子)



小学生のファンドレイザー ～Gender Inequalityに興味を持った少女から 日本協会へ寄付金～

2月中旬、小学生6年の少女がファンドレイザーを兼ねての誕生日会で、プレゼントの代わりにUN Womenへの寄付を募り、親友たちが快く賛同。さらにお母様が倍額にして国連ウイメン日本協会に寄付したいという、嬉しいお便りをいただきました。

インターナショナルスクールに通っていたこの少女が小学部の卒業発表で、研究テーマに選んだのが、「Gender Inequality」でした。日本語と英語で行われるオンラインでの発表準備のために、膨大な資料を調べ、その中で最も信頼性が高く、役立ったのがUN Womenの資料だったので、今回の寄付のきっかけになったそうです。



彼女は小3の時、校庭で男子から「お前は女だからサッカーコートを使ったら駄目だ」と言われ、以来、この言葉に「なぜ女子だから駄目なのか？」との疑問がぬぐい切れず、卒業発表のテーマとして取り組んだのです。折からのコロナ禍によるオンライン授業で先生を頼れない。インターネットでUN Womenの資料を調べ、中にはUN Womenの親善大使であるエマ・ワトソンの印象的なスピーチもあったそうです。

卒業発表では、男女不平等とは何か？ 機会の不平等はどんなものだろう。その結果どんな不平等が生まれるのだろう。そもそも男女不平等の原因は何か？ など、持ち続けてきた問題意識を、彼女の視点から発表しました。

現在は中学生となり、サッカーに夢中、またピアノを弾くなど、活発な日々を送っています。「チェンジメーカーになりたい」と言う彼女。「不平等の意識が無くてもバイアスは日常的に刷り込まれてしまっている。多くの人にこのジェンダー問題を広めたい。知って欲しい。その為にはどうするか？ 日常の身近なことから少しずつ変えていくことが大事」と、語っています。

(日本協会事務局長 永倉香)

政治のジェンダーギャップ:

<https://www.unwomen.org/en/what-we-do/leadership-and-political-participation/facts-and-figures>

応援メッセージ

POLA

ポーラは、創業者が手荒れをしている妻のためにハンドクリームを作ったことをきっかけに始まった化粧品会社です。2029年、100周年を迎えます。企業理念に「Science. Art. Love」を掲げ、時代と共に変化するお客さまや社会と共に、「美と健康」の可能性を追求してきました。

そしてこれから私たちが目指すのは、「私と社会の可能性を信じられるつながりであふれる社会」。今よりも自分自身の可能性を信じ、人の、社会の可能性をも信じていることができる未来。一人ひとりがもっと自分らしく社会とつながり、もっと生きることを楽しみ、豊かに、彩り溢れる瞬間を感じる未来を目指していきます。

そのためには、ジェンダー平等・女性に対するエンパワーメントが不可欠だと考えています。創業以来ずっと女性の可能性を信じ、女性が自分らしく働く機会をつくってきました。そこで見てきたことは、女性たちには自らチャンスをつくりだし、可能性を高める能力があるということ。女性には、多くの可能性が眠っています。社会を変革する力があります。だからこそ、もっと意思決定に参画する女性を増やしたい。

今回、UN Womenの「世界の女性と少女が能力を発揮し、可能性を開き、希望の未来を手にする社会を作ります」というミッションに賛同し、国際女性デーの取り組みの一環として世界中に笑顔が広がることを願い、弊社の代表商品である「リンクルショット」ブランドの売上の一部を寄付させていただきました。

バングラデシュのロヒンギャ難民キャンプで暮らす女性への職業訓練等を通じた自立支援や、女性に対する暴力からの回復、災害等の影響により危機的な状況に置かれた女性へのダイグニティ・キット（生理用品、ヒジャブ、サンダルなど、生活に欠かせない日用品セット）の配布、女性のリーダーシップ育成、そしてコロナ禍で大きな影響を受けている女性への支援等、UN Womenが実施する緊急性が高い取組の支援に役立てられると聞き、彼女たちの可能性を拓く第一歩につながることを祈っています。

ポーラは今後も、女性の可能性を広げるための様々な取り組みを通して、誰もが自分の可能性を諦めず、主体的な選択をし、自分らしく生きることができる社会を目指していきます。

国連ウィメン日本協会の活動

総会報告

2021年3月6日（土）13時半から、2021年度通常総会が行われ、2020年度の事業報告、決算、及び2021年度の事業計画、予算が承認されました。

決算報告

国連ウィメン日本協会2020年度決算報告
(2020年1月1日～12月31日) 単位:円

一般会計

■収入の部		■支出の部	
会費収入	2,600,000	拠出金	4,096,221
寄付金収入	7,017,029	事業費	4,547,099
雑収入	36	管理費	1,747,096
当期収入合計	9,617,065	当期支出合計	10,390,416

その他の資金

■収入の部	
利息	22

当期正味財産増減額	△773,329
前期繰越正味財産額	8,248,167
次期繰越正味財産額	7,474,838

2020年度拠出金支援報告

拠出金総額は4,096,221円となりました。
ご寄付にご協力いただきましたすべての皆様に厚く御礼申し上げます。

- ①バングラデシュのロヒンギャ難民女性自立支援プロジェクト
2,342,018円 (22,315.85ドル)
- ②女性に対する暴力撤廃信託基金
800,000円 (7,644.53ドル)
- ③UN Women本部コア資金
954,203円 (9,115.43ドル)

緊急支援のための募金実施中

皆様の温かいご支援をよろしくお願いいたします。

- ロヒンギャ難民キャンプの大火災で、被災した女性は11,246人、まず、彼女たちが安心して生活できるよう、ダイグニティーキットの配布などの支援
- インドでのコロナ感染のパンデミック下、医療従事者への研修、医療キットの配布を始め、この危機でさらに弱い立場に追いやられた女性達への現金支給など、様々な支援



ダイグニティーキットの配布



配給物を受け取る女性・少女たち

協力協定団体の活動

国連ウィメン日本協会 大阪

2020年は、新型コロナウイルスの影響により、予定していたイベントは開催できず、例年春に開催していた総会も中止となり、書面決議での総会となりました。しばらく活動自粛の状況が続いておりましたが、秋ごろから少しずつではありますが、活動を再開し、10月、11月には、クレオ大阪の館まつり「フェスタ」にてブース出展を、12月にはヒューライツ大阪、クレオ大阪中央主催の「じんけんシネマ2020」に、国連ウィメン日本協会大阪も共催団体としてブース出展をしました。コロナ禍が続く、みなさまと直接お会いできる機会が減っておりますが、2020年度は例年以上に募金、寄付をいただくことができました。

みなさまの温かいご支援とご協力に、心より御礼申し上げます。

この度、国連ウィメン日本協会大阪のニュースレターVOL.4を発行いたしました。昨年度の活動報告等掲載しておりますので、是非ご一読ください。

事務局 長栄くみ子



「じんけんシネマ2020」の様子



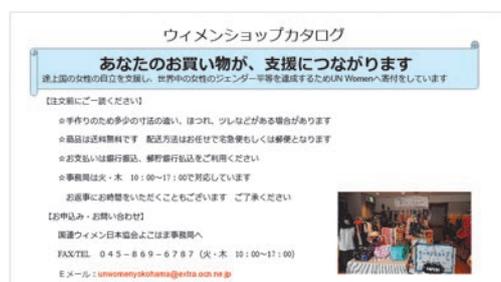
ニュースレターはこちらから

国連ウィメン日本協会 よこはま

コロナ下の活動

新年を迎えてもコロナの終息は見えぬまま、活動予定も立てられず時間だけが経過していきます。人流の抑制ということではリアルで集まることもできず、会議はほとんどがズームになりました。PCで会議をするなど会が発足してから初めてのできごとです。会員同士が勉強しながらお互いに助け合い、ズームを使った会議に出られる人数を増やしていきました。会議はできても最大の難関は、店での対面販売ができないことです。閉店したままのショップの売り上げをなんとかしたいと、5月の連休前にグーグルスライドで手作りのカタログを作りました。ひとまず会員とその知人友人にネットで商品を見ていただき販売ははじめました。評判は上々でほっとしています

西村洋子



国連ウィメン日本協会 東京

今年は新型コロナウイルス感染症の第3波の只中で新年度を迎えることになりましたが、その時々々の状況を判断しながらメールやオンラインでの会議を重ねつつ活動を続けています。

2021年度の定例総会は、全会員による書面審査と2月23日(火)13時から役員・関係者によるZOOMによるオンライン会議の併用によって開催いたしました。今年度も広報活動に重点を置き、ニュースレターの発行に力を注ぐこととなりますが、4月末にはVol.28を発行し、関係各方面に広く配布することができました。

昨年度開催できなかったチャリティーコンサートも、新たな企画で11月の開催を予定しています。若手のピアニストとソプラノ歌手によるデュオコンサートを古賀政男記念館けやきホールで行うことを決め、感染症の状況を見ながら準備を行っています。また、バザーが再開できますことも願いつつ準備を整えています。

副会長 阿部幸子



オンライン総会の様子

国連ウィメン日本協会 多摩

新型コロナウイルス感染拡大のため毎月1回の役員会が開けないこともありました。

そのような状況下でしたが、会議に参集だけでなくリモート参加、講師交渉や会場確保は電話で行うなど、それぞれの努力で、5月22日に講演会を行う準備を進めてきました。

昨年培ったオンライン講座の技術を発展させ、昭島市と日野市との2か所の会場をつないだ企画でしたが、緊急事態宣言が再度出されたため秋頃までの延期を決定しました。

昨年度からの新役員体制の中、会の運営上なかなか手がつけられなかったことの変更など、会議運営上の充実を力を入れています。コロナ騒動がなんとか終わったら、直ぐに活動開始できるよう準備が整っています。

広報担当 高橋由美



幻の広報チラシになりましたが、秋バージョンを考えるのが楽しみです。

事務局からのおしらせと報告

■ご寄付のお申込みについて

日本協会への寄付は毎月定額をご寄付いただく「継続寄付」(マンスリドネーション)とその都度ご寄付いただく「都度寄付」があります。いずれの寄付も税制優遇措置の対象になります。

お申込みは、国連ウィメン日本協会HPに掲載されております、こちらのページからお願い致します。

<https://www.unwomen-nc.jp/donation/#kifu>

「継続寄付(マンスリドネーション)」

毎月定額のご寄付を続けていただく募金方法です。

毎月のご寄付は、世界の女性・少女を支援するUN Womenが継続的にプログラムを展開するうえで、なくてはならないご支援であり、世界の女性・少女に希望の未来をもたらします。一度お申込みいただければご指定のクレジットカードからの自動引き落としが可能な、インターネット決済をおすすめします。

インターネット決済では、「継続寄付」をお選びいただき、毎月の定額を1,000円、2,000円、3,000円、5,000円のいずれかを選択していただけます。

「都度寄付」

寄付のお申し込みを随時、その都度お受けいたします。インターネット決済の場合は「都度寄付」を選択していただき、1口1,000円からのご寄付をお願いしております。

また、郵便振替もご利用いただけます。

郵便局 振替口座番号:00240-7-43928

口座名義:NPO法人国連ウィメン日本協会

■賛助会員募集中

事務局へご連絡いただくか、ホームページからもお申込みいただけます。

【年会費】個人 1口 5,000円
団体 1口 10,000円



■寄付者一覧(前回掲載以降2021.5.31現在)

大川紀代子 田村節子 藤原麻千子 大西珠枝 小川温子
鈴木登美子 北井久美子 廣澤洋子 長縄ちづ子
(株)ベイクルーズ 羽井慎次郎・亜水加 鈴木玲美とその親友たち
山崎利恵 山本真里 中道貞子 藤井紀代子 大塚昌子
(株)ベッセルホテル開発 小場靖子 齋藤京子 木村早苗
大山行雄 岡島敦子 松村美恵子 高岡日出子 岡本悦子
全国友の会 上田恵子 横井千香子 (株)ポーラ 日本アムウェイ
合同会社 磯山久美子 船橋邦子 武田清美 山下清子
川野安子 佐藤瑞枝 木原直子 森山和子 永井好子
ヨネダサヨコ ホソヤマコト 向後紀代美 キヤマケイコ 山下泰子
永井よし子 山口洋子 梅田和子 伊藤冴子 石井澄子
志水紀代子 森真理子 横山三純 谷森櫻子 向山恵子
花田啓一 JAUWシンポジウム2020スタッフ有志 伊藤勝子
長谷川瑞穂 黒見節子 鷺見八重子 小薊米葉子 岩田ゆかり
福島有子 ササキミナコ 高木澄子 瀬谷利花 矢澤澄子
奥田豊子 横須賀ゾントクラブ 石橋むつ子 聖教新聞社

順天堂大学 立憲民主党 (株)ツクルス (株)イー・ウーマン
橋本ヒロ子 衛藤栄津子 小野啓子 本田均平 本田敏江
周欣宇 今井公美子 鈴木千恵子 神野千代 山内理絵
伊藤光子 仁田有紀 高田順江 深谷知昭 岩城淳子
佐藤想子 原田裕美 村松由貴 竹田大輔 本田均平
藤井裕美子 小山田瑞那 岡部文子 貞岡奈美 杉山家
安田芳子 西尾英子 越智香菜子 本明理美子 辻野紀子
真鍋芳美 高橋真理 福田沙織 玉城知香 浜田久里子
木松沙織 中根章子 伊藤繁 永谷多光 荒真理 尹修英
石川慶子 後藤宮子 酒井興子 和田津美智代 Sister伊藤悠美
加藤優李 上杉史乃 竹本和永 皆木秀明 藤野朱美
井野元朱里 河部祐子 松井晶子 横山美和 山崎美緒
静川彩子 十河ひろ美 本田すみか 石丸裕 上田克也
星野利香 島崎礼子 吉村咲 竹本博文 武井千恵子
加地照子 長谷川操 齋藤優希 久保田都子 新井晶子
岩崎恵 福士令奈 広瀬雅哉 大森春香 吉田響子 入江亮子
高盛秀子 小林三津子 渡辺文恵 鈴木千鶴子 荻野良江
稲塚由美子 柘植あづみ 伊従みゆき 石田久仁子 北明美
檀野竹美 井谷聡子 加藤秀一 日置雅子 織田由紀子
中山正子 国領夏美 出口律子 木村悦子 宇於崎裕美
脇元隆一郎 斎藤美栄子

■「キモチ。」宅本便寄付(前回掲載以降2021.5.31現在)

鈴木和子 志村かおる 辻智美 田中由美子 岩城淳子
黒川理香 山田佳子 磯部翠 高田よしみ 鈴木千恵子
長沼尚美 中田美奈 東金久美子 今野恵美 鈴木舞美
佐藤誠子

■(株)高島屋のユアチョイスギフトカタログによる寄付

■正会員団体15団体(前回掲載以降2021.5.31現在)

(公財)アジア女性交流・研究フォーラム NPO法人一冊の会
国際婦人年連絡会 堺市女性団体協議会 (公財)横浜市男女共
同参画推進協会 (一財)大阪市男女共同参画のまち創生協会
群馬婦友会 国連ウィメン日本協会よこはま 国連ウィメン日本協
会多摩 全国友の会 (株)高島屋 (公財)イオン1%クラブ
国連ウィメン日本協会さくら 国連ウィメン日本協会東京
国際ゾント26地区

■正会員個人31名(前回掲載以降2021.5.31現在)

■賛助会員団体13団体(前回掲載以降2021.5.31現在)

日本生活協同組合連合会政策企画部 にいがた女性会議
(公財)せんだい男女共同参画財団 越谷ミズの会
(株)グッドバンカー (株)電通 (公財)佐賀県女性と生涯学習財団
(株)フジテレビジョン 国際ゾント姫路ゾントクラブ
(株)クロスメディア・ランゲージ 特定非営利活動法人ウィメンズアイ
国連ウィメン日本協会北九州 (一社)大学女性協会

■賛助会員個人138名(前回掲載以降2021.5.31現在)

新規入会:平歩 林絵美 小林香 笠原芳子

以上、敬称略

<認定>NPO法人国連ウィメン日本協会

事務局

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町435-1

男女共同参画センター横浜内(フォーラム)

・TEL/FAX 045-869-6787

・E mail unwomennihon@adagio.ocn.ne.jp

・ホームページ <https://www.unwomen-nc.jp>

●交通のご案内 JR・横浜市営地下鉄「戸塚駅」下車、徒歩7分

